

（地域ビジネス創出事業） 手引書

[Social Business Project … 略称:SBP]

SBP

S o c i a l

B u s i n e s s

P r o j e c t

地域の課題を見つめ、高校生等が自ら解決する



文部科学省

地域ビジネス創出事業 (SBP) の概要

SBPとは

Social Business Project (ソーシャル ビジネス プロジェクト)とは、高校生等が主体となり、地域の熱量を持った大人たちと関わりながら、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取組です。

具体的には、地域の課題を解決するために地域資源(モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)を学び、それらと交流し、見直し、活用して、“まちづくり”や“ビジネス”の形で提案していく活動です。地域の課題解決に役立ちたいという想いに突き動かされた高校生等や地域の大人たちが牽引しながらもその活動を地域の人たちが応援して、支えていこうというものです。

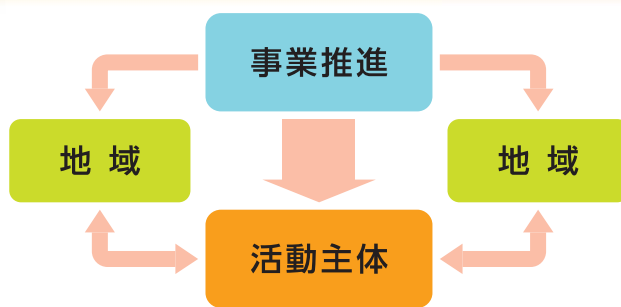
■ SBPの5つの要件

- 高校生等の取組である
- ビジネスの手法を用いている
- 地域資源の活用や地域課題の解決を目指している
- 解決に向けた実行がある
- 地域の大人や行政・企業等と連携している

※平成29年度地域政策等に関する調査研究より

■ SBPの仕組み

地方創生、地域振興の観点から、高校生等が地域の大人とともにソーシャルビジネスの展開により、地域の課題解決を目指す取組です。地域の大人や行政・企業等と連携しているというのが大きな特徴です。



SBP誕生のいきさつ

三重県多気町にある三重県立相可(おうか)高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、平成25年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がり、現在、同様の取組が全国に広がっています。



地域ビジネス創出事業(SBP)の概要

■ SBPの成果・効果

SBP活動を通じて、普段の授業では体験できない様々な刺激を受けることで、高校生たちは大きく成長していきます。また、SBPに関わる学校の教師や地域の担当者といった大人たち、そして地域にも大きな影響を与えています。

【生徒に見られる成果】

- 地域(まち)に対する愛着が湧く。
- 自主性・積極性が向上する。
- 表現力・プレゼンテーションスキルが向上する。
- 進路選択にもポジティブな影響を与える。

【教師・地域の担当者に見られる成果】

- 生徒と関わることで自分も成長する。
- 生徒たちの柔軟なアイデアから自分も学ぶ。

【地域に見られる成果】

- 事業者が前向きな雰囲気になる。
- 地域の子供たちに対する意識が変わり、期待が膨らむ。



文部科学省では、学びを通じた地域振興の観点から、高校生等がビジネスの手法等を取り入れながら、地域の大人たちとともに地域課題を解決する「地域ビジネス創出事業」(Social Business Project: 略称 SBP)を応援しています。

SBP活動の代表的な事例

SBPは、地方創生、地域振興の観点から、高校生等が地域の大人とともにソーシャルビジネスの展開により、地域の課題解決を目指す取組です。その代表的な取組事例をご紹介します。

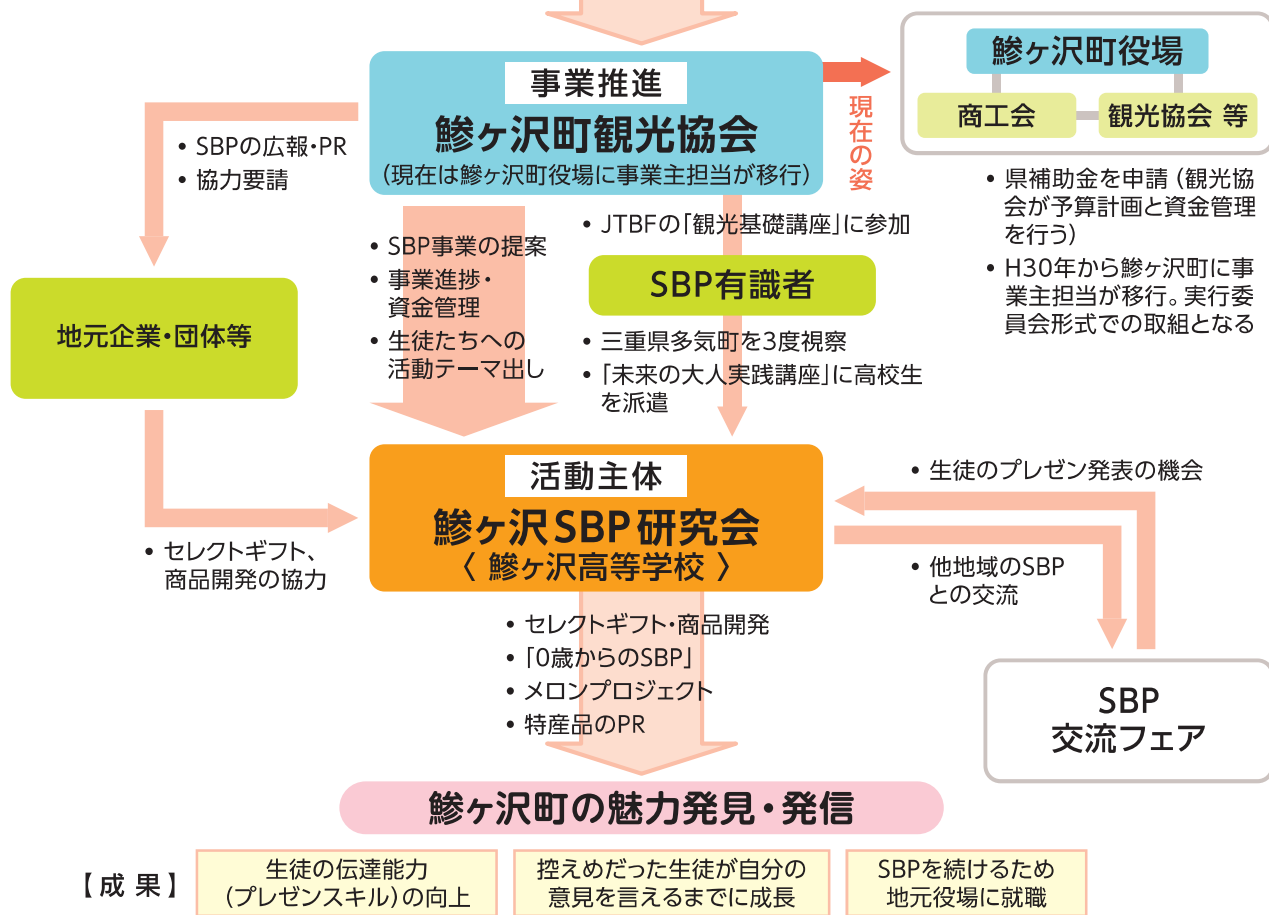
青森県立鱒ヶ沢高等学校 SBP研究会



- 地元の地域課題を見据え、観光協会から学校、町役場に働きかけた事例。
- 鱒ヶ沢町観光協会の職員が、観光振興をテーマにした講座で、SBP先進事例「高校生レストラン」を仕掛けたSBP有識者との接点が生まれた。
- 鱒ヶ沢高等学校に働きかけ、三重県のSBP先進事例の視察、現地の活動にも参加。SBP有識者を招いた鱒ヶ沢高等学校での講演会終了後、生徒から「自分たちもやってみたい」との声が挙がり、H28年から全校生徒を対象に募集をかけ、SBP活動がスタート。
- 現在、鱒ヶ沢高等学校のSBP活動は軌道に乗り、当初の特別活動という位置づけから、同好会活動の位置づけに変わった。
 - ⇒ 生徒の伝達能力の向上といった効果の他、卒業生がSBP活動の継続を動機として、地元役場に就職する等の動きも出ている。
- 事業推進主体が観光協会から、町役場に移行。実行委員会形式になり、町役場の下に商工会、観光協会等が組織される形となる。

青森県立鱒ヶ沢高等学校 SBP研究会

鱒ヶ沢町の課題：人口減少・少子高齢化・人材流出



SBP活動の代表的な事例

● 鱈ヶ沢SBP研究会：主な活動

- 地元商品を集めた「セレクトギフト」を製作。
 - ▶ 「自分たちで活動する」を柱に、ギフトのコンセプト、デザイン、中身までを生徒たち自ら考案。
 - ▶ 地元の商品をフィールドワークで選定し、生産者にも直接交渉。
 - ▶ 「鱈ヶ沢町のPR」を目的とし、ターゲットは40代以上、県内の家族や知人への贈答品というコンセプトで設計。
- オリジナル商品「ポーくんジャーキー」「イカタンスルメ」「カ士くんおやき」「カ士くんあめ」を開発。
 - ▶ 「カ士くんおやき」は町内外のイベントで販売し、売り上げはSBPの活動資金に充てている。
- 最終的な目標は、自分たちのオリジナル商品でセレクトギフトを作ること。



セレクトギフト「鱈の味」

オリジナル商品
「カ士くんおやき」「ポーくんジャーキー」の
製作の様子

● 【事業推進コーディネーター】 鱈ヶ沢町観光協会

- 事業推進の主管団体。資金管理、事業進捗管理を行い、鱈ヶ沢町が申請した県補助金事業を活用して予算計画と資金管理を担当している。
- SBP担当者は、高校生たちの活動にオブザーバー的な役回りで参加している。
 - ▶ 担当者が「テーマ」を投げかけ、生徒たちからアイデアを引き出す形で活動に関与。
- H30年度から、SBPの事業主担当が観光協会から鱈ヶ沢町役場に移行。それに伴い実行委員会形式での取組に変わる。
 - ▶ 鱈ヶ沢町副町長が実行委員会の会長、商工会や観光協会等の職員が実行委員を務める。

● 【活動主体】 鱈ヶ沢高等学校

- 発足当初は特別活動という位置づけであったが、H30年度より「同好会」に変わる。
- SBP活動に参加している生徒の多くは他の部活動や生徒会等との掛持ちで参加している。
- 地元のフィールドワーク、「セレクトギフト」の製作やオリジナルの商品開発を通じ、鱈ヶ沢の魅力発信に努めている。
- 小さい子供向けの「地域活性化マン」や、高齢者のゴミ出しや雪かきを手伝う「困りごと応援し隊」等の活動を行っている。
 - ▶ 「0歳からのSBP」と称し、皆で地域を盛り上げる活動を目指している。

● 【その他サポーター】 地元企業、団体、個人等

- 地元の企業や団体等が、高校生で作る「セレクトギフト“鱈の味”」や商品開発等に協力している。
- SBP有識者による「未来の大人実践講座」や鱈ヶ沢高等学校での講演は、高校生たちのやる気を触発。SBP活動のアドバイザーという立場で高校生たちの活動を継続的にサポートしている。

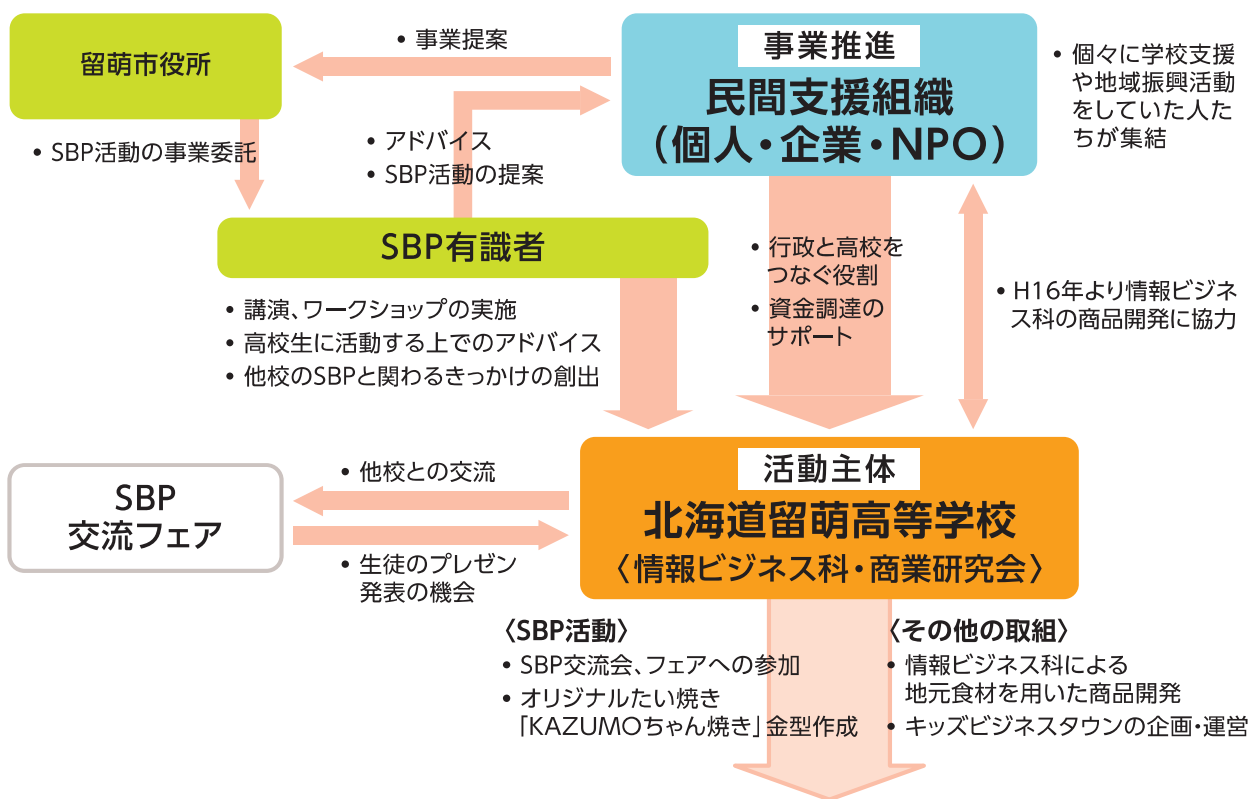
SBP活動の代表的な事例

■ 北海道留萌高等学校 情報ビジネス科

Point

- SBP活動を支援するため、民間の企業、個人、NPOが集まり「民間支援組織」を立ち上げ、地域も巻き込み高校生の活動を支援している事例。
- 地域の大人と高校生が密接に連携しているのが特徴。
- 高校では従来より「地元食材を用いた商品開発」「キッズビジネスタウンの企画・運営」等、地域に関わる活動を行っており、H30年からSBP活動も通じて「関係人口」の創出を目指している。

留萌市の課題：過疎化・高校生の活動を支援する仕組みがない



関係人口の創出、留萌の魅力発信、若者の地元志向の醸成



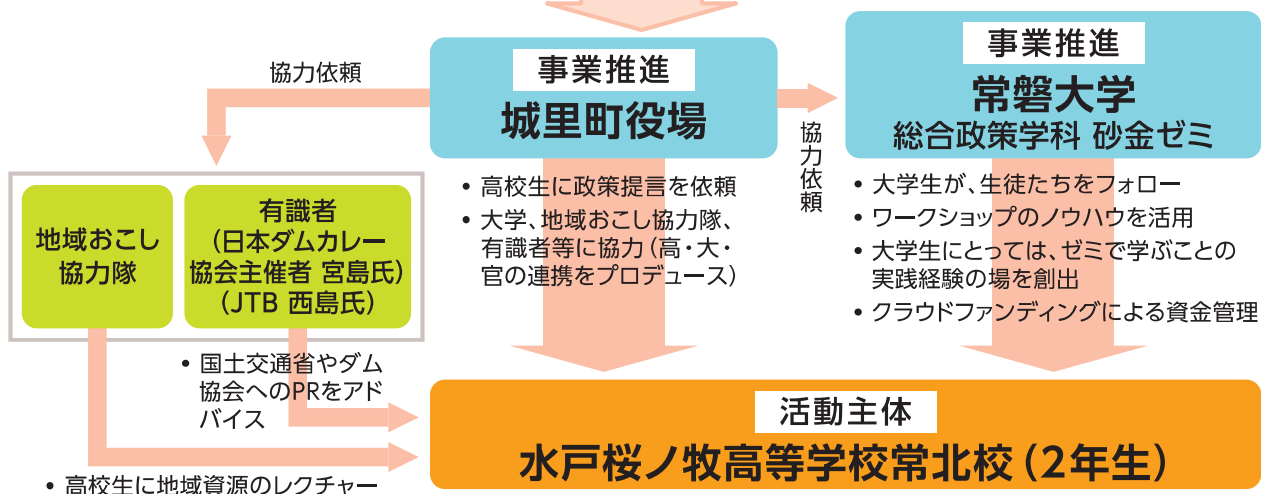
SBP活動の代表的な事例

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校

Point

- 町役場が高校・大学との連携をプロデュース。行政・大学、それぞれの特徴を生かして高校生の活動をサポートした事例。
- 活動資金にはクラウドファンディングを用いている。

城里町の課題：人口減少・若者の流出

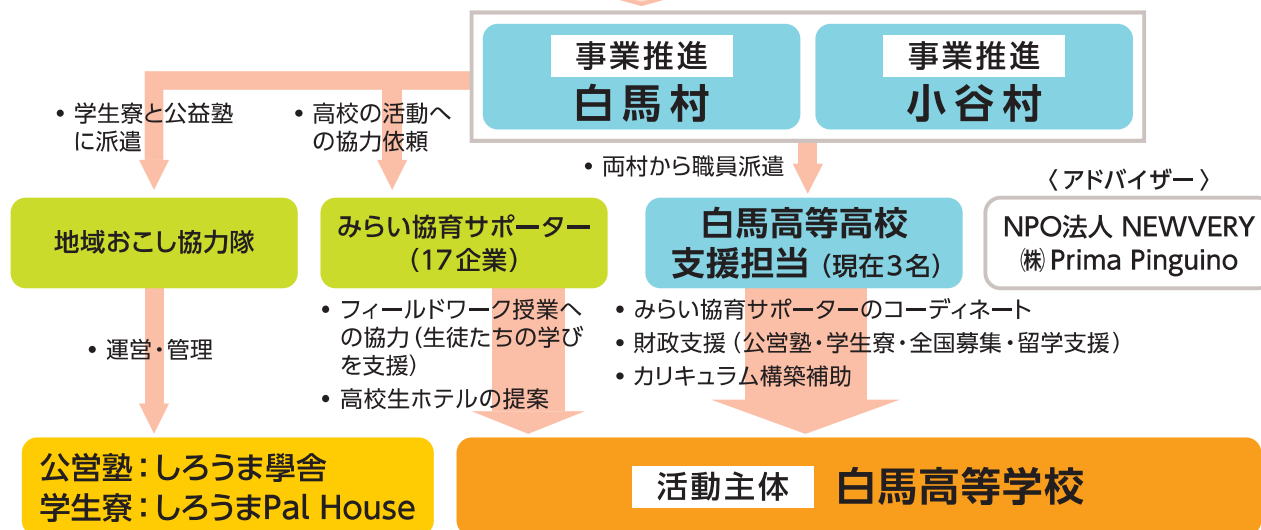


長野県白馬高等学校 国際観光科

Point

- 地域に唯一の高校の存続に向け、村役場主導で支援体制を構築している事例。
- 白馬高等学校を応援するという目的に賛同する地元事業者を組織化した「みらい協育サポーター」を組織化し、地域全体で学校を支援。

白馬村・小谷村の課題：人口減少・少子化・国際観光人材の不足



地域で活躍するコーディネーターについて

SBP活動に欠かせない地域で活躍するコーディネーターの役割についてご紹介します。

地域で活躍するコーディネーターに必要な資質・能力 7項目

1 地域課題を解決することを自分事として捉える**当事者意識**があること

- 他地域の取組事例等を参考に、課題解決について調べたり情報収集したりしている
- 地域の課題を解決したいという強い思いを持ち、地域にとってどういう未来が理想的かのイメージを持っている
- 地域の課題が自分の生活にデメリットであることを意識できている(自分事として捉えている)

2 地域に**人的なネットワーク**を持っていること

- 地域の企業・団体とつながりがある
- 地域に影響力のある人とつながることができる
- 地域の人が集まるイベント等に参加している

3 **論理的に考えて企画**することができること

- 物事の関係性を構造化して捉えることができる
- 分かりやすく他人に説明できる
- 原因や因果関係を明確に把握することができる

4 事業を円滑に回す**実行力**があること

- 目標を見据え、計画的にスケジュールを立てることができる
- 事業運営に必要な仕組み、体制を作ることができる
- チームで動くことができる

5 関係機関と**円滑にコミュニケーション**を取ることができること

- 学校・高校生等・地域の人と取組の意図・目的を共有することができる
- 連絡や情報共有をこまめに行うことができる
- フットワークが軽く、課題解決のためにすばやく動くことができる

6 関係機関の**利害調整**を図る能力があること

- 学校・高校生等と事業者(大人)の関係をとり持つことができる
- 責任の所在を把握し関係機関同士を調整できる
- 建て前と本音の使い分けができる

7 学校・教師・高校生等の**特徴を理解し、伴走**することができること

- 高校生等と同じ目線で付き合うことができる
- 学校関係者と信頼関係を築くことができる
- 学校の文化や教師の特徴を理解し、アイディアの押し付けではなく一緒に考えることができる

地域で活躍するコーディネーターについて

地域で活躍するコーディネーターが持つべきビジョン (本来の目的・目的とすべきこと)

高校生等(若者)に愛郷心を育むこと(地域人材育成という観点)

- 若者の愛郷心とは、単に地域のこと(地域資源・歴史・文化等)を知るだけでは育まれず、若者が地域の人に自分がどれだけ育まれたかを実感し、そのことが社会人になってからも自分の中で生き続け、地域に対する感謝の心を持つことで醸成されるもの。
- その愛郷心により、そのまま地元に残り続ける者もいれば、一度は都市部に出ても地元に戻り、そこで活動しようという動機となる。そういった長期的な視点での人材育成が、地方における根本的な課題であるということを念頭に、事業をコーディネートすることが求められる。

地域で活躍するコーディネーターとは(定義)

- **地域課題を解決することを自分事として捉える当事者意識**があり、**地域に人的なネットワーク**を持ち、**学校・地域・行政という関係機関と円滑にコミュニケーション**を取りながら、**解決に向けた事業展開を円滑に回す実行力**がある人
- 事業を実行する上で、**論理的に考えて企画を立て、関係機関との利害調整を図り、実施したことを積極的に情報発信**しながら、**事業展開を支えるために必要な資金調達を行える人**
- 学校・教師・高校生等の特徴を理解し、**高校生等に愛郷心を育てることができるよう、彼らに寄り添って伴走することが出来る人**

Point

- 地域で活躍するコーディネーターの役割すべてを一人が務める必要はない。チームで役割分担を行い、各々が得意分野で補完しあうことで、事業を円滑に回すことができる。

SBPに取り組んでいる関係者からの声 (得られるやりがい／影響)

生徒

地域(まち)に対する愛着が湧く

- 生徒が自ら地域課題を見つけ調べることで、地域の良さを発見できるようになった。
- 高校生が地域に対して愛着(愛郷心)を持つようになった。

〈 実際の声 〉

生徒たちはこれまで町の現状にきちんとした形で触れる機会がなかったが、調べてみることで、現実を知り、政策などを通して町が努力をしていることに気がついたようです。その結果、地元の課題を自分のものとして見ることができて、本当に自分の町を魅力ある町にしていきたいという意識が育ったように思います。
(水戸桜ノ牧高等学校常北校教諭)

自主性・積極性が向上する

- 他校の生徒と交流する中で、自分たちだけが成長するのではなく、皆と一緒に成長したい、誰かに必要とされる存在になりたいと考えるようになった。
- SBPは主体性、表現力を高めることにつながり、子どもたちの役に立っている。

〈 実際の声 〉

外部の方と関わる中で自分たちの未来のビジョンが定まり、主体性が高まったように思います。その一つの例として、「交流フェアでの経験を通して場数を踏みたい」、「発表する機会が必要だ」との訴えがあり、自分たちから校内で報告会を行いたいと提案してくれました。(北海道留萌高等学校教諭)

表現力・プレゼンテーションスキルが向上する

- ワークショップや活動報告のプレゼンテーションなどを通じて、生徒が自分の考え・意見を人前で堂々と発表できるようになった。
- 試行錯誤を繰り返して、失敗しても周囲から認めもらえるという自信が生まれた。

〈 実際の声 〉

相手にどうしたら伝わるか、こういうプレゼンを作ったほうが興味を持ってくれるのではないかなど、人からどう見られるかということまで注意を払うようになり、それが日常の会話にも表れるようになってきたと思います。
(高浜高等学校教諭)

進路選択にもポジティブな影響を与える

- 活動を通じて培われたプレゼンテーション力が、進学・就職の面接時の高評価獲得につながった。
- 地域活動に関わる勉強ができる大学や、地元の役場に就職するといった例も出てきた。

〈 実際の声 〉

控えめなタイプの生徒が、SBPを通じて自分のやりたいことを見つけ、「町のために働きたい、町の側から活動を支援したい」と志を持って町役場に就職を決めました。(鰯ヶ沢高等学校教諭)

SBPに取り組んでいる関係者からの声

学校・自治体の関係者

● 生徒と関わることで自分も成長する

SBP活動を通して私自身も町のことを新たに発見したり、再発見したりの連続で、役場職員としても大きく成長させてもらえました。また、高校生と一緒に活動する上で、素朴な疑問や考えもしなかった視点からの問いかけに応じていく中で、私自身も学ぶことが多くありました。その点で**プラスが4乗ぐらいあり、初めて町づくりをしている実感を持ってました。**(南伊勢町役場担当職員)



● 生徒たちの柔軟なアイデアから自分も学ぶ

SBP活動は座学では得られないような場面にも多々遭遇します。そうしたとき、高校生も私たちも本気で意見をぶつけながら考えることで、考え方の違いを知ったり、共感できる部分を見つけたりします。それはお互いにとって本当に貴重な成長の場だと思っています。(北海道留萌高等学校教諭)

地域

● 事業者が前向きな雰囲気になる

協力してくれる事業者の人たちも、会社として協力することで雰囲気が良くなるといった話もあります。**高校生が真剣に勉強したいと思う熱量が伝わるからこそ、そうした雰囲気になるのだと思います。**(高浜市役所担当職員)

● 地域の子供に対する意識が変わり、期待が膨らむ

高齢化も人口減少もなかなか歯止めがかからない中で、高校生が希望の光だという意識が我々の中にあります。**子供たちに夢を託すという想いが、地域の中でも起きているからなのだと思います。**高校生に対する支援はそうした思いに共感してくれる人の輪が増えることで、少しずつ大きくなってきたのだと感じています。(留萌高等学校民間支援組織関係者)

私たちの活動は観光協会が最初のきっかけをつくりましたが、今では町役場が音頭をとり、観光協会や商工会、教育部門等がその底上げに尽力しています。この図式は他の事業でも応用できるものと考えます。SBPは高校生はもちろん、関わる大人や地域など、町に色々なチャンスをもたらしていると感じています。(鱒ヶ沢町観光協会担当職員)

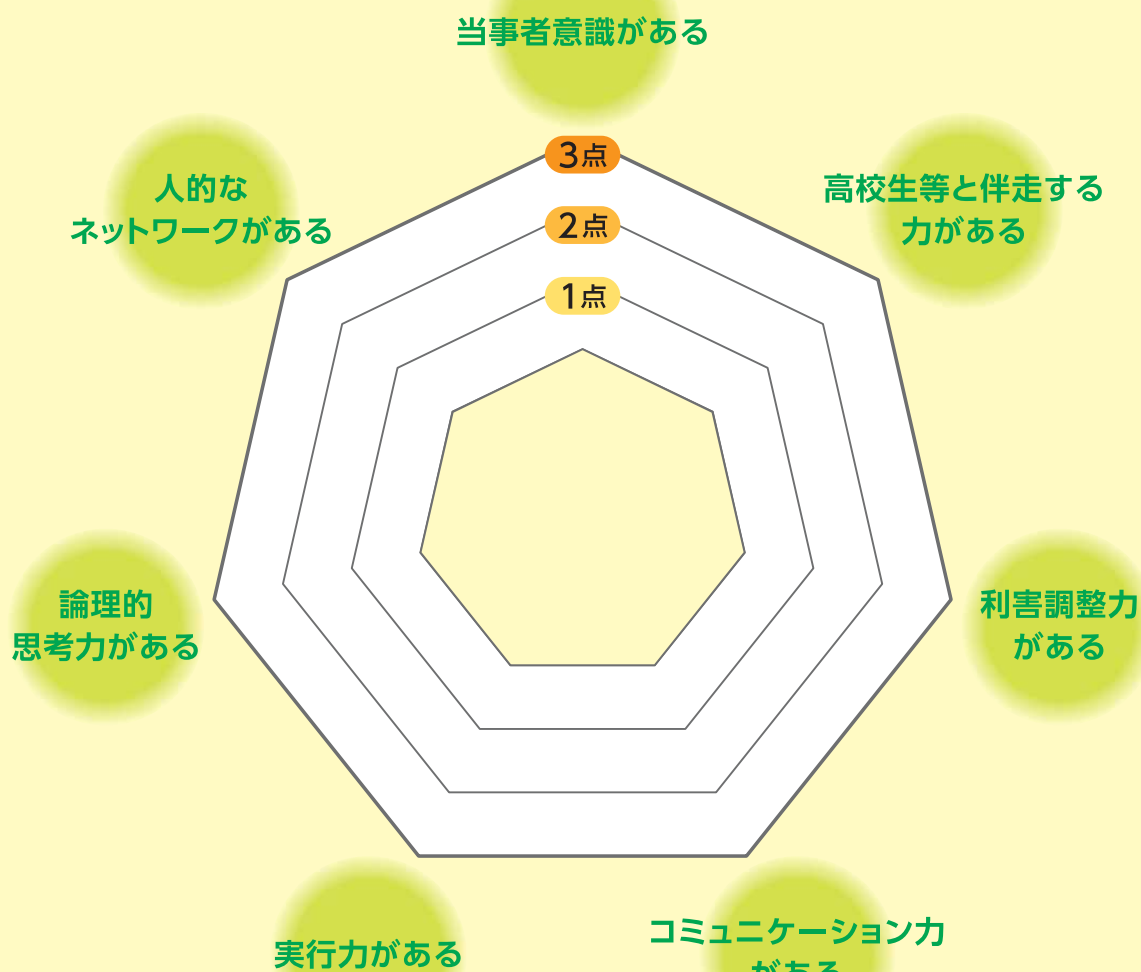


地域で活躍するコーディネーターとしてのあなたの資質・能力は
どれくらいあるのか、自己分析してみましょう。

地域で活躍するコーディネーターに必要な資質・能力について、簡単にチェックできます。
事業を手掛ける前後で活用したり、今後地域で活躍するコーディネーターを目指したい場合には、
どういった資質・能力を強化していけばよいかを考える指標としてお使いください。

【使い方】

- 3段階評価で、3点が「もっともできている」として印をつけてください。
- 印をつける際には、7ページの「地域で活躍するコーディネーターに必要な資質・能力」の項目に対応する形で、3つの小項目が記載されていますので、それら小項目をどれだけできているかを目安に印をつけてください。



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 TEL. 03-5253-4111 (内線3464)

URL <http://www.mext.go.jp/>